



空を見上げながら、一年の終わりに思うこと

空気が随分と冷たくなってきました。あっという間に、年の瀬です。進級、進学まであと、4か月。乳児園も幼児園も子どもたちが大きくなったと感じる場面にたくさん出会います。

特に赤ちゃんたちの成長はめざましく、小さかった赤ちゃんたちは歩き始めたり、踊ったり、絵本の真似をして可愛い仕草を見せてくれます。離乳食から普通食になり、ぱくぱくと美味しそうに自分で手づかみで食べる様子は可愛くてたまりません。1歳児りす組さんも、「いやだ、いやだ」は拡大期に突入していて、突然、何があったの? と、大人が戸惑うくらい、ひっくりかえって泣きはじめたと思ったら、とびきりの笑顔で抱きついてきてくれたりします。少し大変な時ですが、安心してください。順調に成長していて、自分をしっかり表現できているということです。2歳児らいおん組さんは、もうすぐ幼児クラスになっていくのだと思う場面がたくさんあります。指先は、思い通りに動かせるようになり、はさみやテープを使って、切ったり貼ったりを夢中で楽しんだり、お友だちと人形を抱っこしてお家ごっこや、お店屋さんごっこで、「いらっしゃいませ。」「何にしますか。」と、言葉でやりとりしながら遊んでいます。広い場所を走るとき身のこなしもかっこよくなってきました。紙パンツだった子どもたちも、ほとんどの子どもが「お兄ちゃん、お姉ちゃんパンツ」の布パンツとなり、トイレでの排泄も自立に向かっていきます。お昼寝の時も布パンツで眠って…おねしょが出ていなければさらに自信満々です。服が汚れたら自分で着替えたり、自分の物の管理も出来るようになっていて、生活面の自立へと向かっています。まさに自分が1番最高!の素敵なお子さまです。そんな素敵なお子さまは、もうすぐ、にじ組さんに仲間入りです。しみじみと、大きくなったと思う反面、まだまだ「抱っこ」をせがんで泣くときもあります。特に、月曜日の朝や雨降りなど、布団などの荷物も多いのに、「抱っこ」と泣かれると困ってしまいますね。「NHK すくすく子育て」のコメンテーターでお馴染みの井桁容子先生が、こんなことを言っておられます。『子どもは魔法のような感性を持っていて、大人が思っている以上に大人の心を感じ、

受け止めてくれている。「だっこだっこ」と子どもが言うのは、お父さん、お母さんのさまざまな大変さを察して、子どもが“抱きしめてくれている”のかも』と。抱っこしてほしいではなくて、抱っこしてあげてると思ってる? なるほど…そう考えると、「抱っこ」が愛おしくてたまりませんね。今は手が離せないとか、体調が悪い時などは、子どもの思いに応えることが難しいときもあります。そんな時は、「抱っこできなくてごめんね。」と素直に子どもに言えばよいのです。そして、抱っこできるときに、しっかり抱っこしてあげてください。抱っこができないときは、ぎゅっと抱きしめるだけでもよいのです。子どもはよくわかっています。魔法のような感性を受け止めて、癒されてくださいね。

この頃何故か、虹がかかる空をよく見ます。虹情報が入ればすぐに“にじ組”さんは、屋上に行ってみんなで虹を見ます。だって“にじ組”ですから。虹は、太陽を背にした反対側にできると、夏の水あそびの体験から、年長しろ組さんが教えてくれました。珍しい虹を見ると、何か良いことがあるそうですよ。

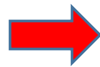
そして、新型コロナウイルスへの感染防止で、2年連続中止されていた「広島みなと夢花火大会」は、サプライズ企画として、「広島ドリーム花火2021」と名前を変え、12月11日の夜8時、10分間だけ花火が上がるようです。コロナ禍で影響を受けた人々にエールを送るねらいがあるとか。広島市内15か所と廿日市2か所で一斉に行われるそうですが、見物客の蜜を避けるために花火の上がる場所は秘密だそうです。冬の夜空に10分間だけ上がる花火を見つけることが出来たら嬉しいですね。この2年、皆さんがいっぱい我慢してきたことが、報われるようなひとときとなればいいなと思います。

新型コロナウイルスの変異株オミクロン株が新たに確認されて警戒が強まっています。年末年始を迎えて、人の移動が多くなるため不安もありますが、引き続き、感染対策を行いながら、みんなでいっぱい笑って免疫力をアップさせ、元気に過ごしていきたいと思えます。

園長

給食でみかんが出たときのこと、あかぐみさんは自分で皮をむくことに苦戦する子がいる中、「いいにおいがする」「手がオレンジになっちゃった」とたくさんの発見をしました。なにかこの皮で楽しいあそびができないか…と考えた保育者は、以前から屋上のデッキの椅子のところでおふろごっこをしていたことを思い出し、みかん風呂あそびをしようと考えました。

にじいろ
プロジェクト



さっそく、食べた皮をみんなで干します。

水の中に皮を入れても匂いはしないけど、お湯だといい匂いになること、足で踏んでいると水がオレンジになっていくことなど、たくさんのことを発見したあかぐみさんです。

足湯ごっこの楽しい様子を見たり聞いたりしたきいぐみ、しろぐみさん。自分たちも「温泉したい!」と盛り上がり、さっそく、デザートで食べたみかんの皮を干し始めています。日常の子どもたちの様子やつぶやきと、以前からの子どもたちのあそびの中からヒントを得てあそびを膨らませ、新たな楽しいあそびが広がります。これから異年齢での“ひので足湯温泉”が広がっていくのかな。楽しみです。幼児園主任

